学校経営の充実を図る学校評価

2013（平成25）年9月20日
文部科学省第2講堂
天　笠　　茂（千葉大学）

目次

Ⅰ．学校評価をめぐる現状と課題

Ⅱ．実効性をあげるための方策

Ⅲ．第三者評価の在り方

Ⅳ．学校評価と人材育成

Ⅰ．学校評価をめぐる現状と課題

学校評価の形は整った

〇学校評価実施状況調査
（1）自己評価の実施（概ね全て）
学校関係者評価の実施（81％）
（2）学校関係者評価：
一般教職員との対話、
保護者からの意見聴取（約3割）
〇とりあえず整ったということ
〇学校評価に取り組んだ第一世代の退場

“学校評価を用いないと学校経営ができない”

〇着任時にとった行動は？

〇最初の職員会議に際して？

〇PTA総会等に際して?

〇学校の広報戦略の策定に際して？

学校評価は「評価」したい対象に迫っているか

・目標の在り方
・網羅的な評価項目の在り方
・保護者などへのアンケートの在り方
・教育委員会の学校評価支援の在り方
・自己評価・学校関係者評価・第三者評価の在り方

授業改善と学校評価

＜学習評価ーカリキュラム評価ー学校評価＞
・授業と学習評価
・観点別評価と単元
＜本時中心主義＞から＜単元中心主義＞
・単元を含む年間指導計画への評価
・年間指導計画をもとにしたカリキュラム評価
・カリキュラム評価をもとにした学校評価

実効性のある学校評価か

「学校評価の結果が学校改善に役立っている」という実感をそれぞれの関係者がどこまで得られているか。

＜実効性について＞

　それぞれにとって学校改善や教育水準の向上につながっているという有用感

演習のテーマ

〇学校評価をより実効性のたかいものとするために、行っている工夫や配慮事項等はどのようなものか。

〇学校評価の途中経過や結果を、どのように学校改善に結びつけているか。また、学校組織マネジメントを行う上で、学校評価をどのように生かしているか。

Ⅱ．実効性をあげるための方策

学校内での取り組みの充実

＜自己評価の質的改善を＞

1．目標の在り方

2．学校評価をめぐるシステムと運用の工夫

3．学校評価をめぐるシステムと運用の工夫

4．学校評価をめぐるスケジュールの工夫

目標の在り方：目標の明確化と重点化

〇学校の現状、課題の分析

〇子どもの姿の具体的な明示

〇達成状況の測定

〇学校が重点を置いて取り組むもの

学校評価の目的の明確化
ー学校評価の目的ー

①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。

②各学校が、自己評価及び保護者などの学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

（「学校評価ガイドライン[平成２２年改訂]」より）

学校評価をめぐるシステムと運用の工夫

○全教職員の参加

○学校評価事務の簡略化と処理システムの整備

○学校評価を進める組織づくりの工夫

ー学校評価における情報の収集や分析、改善案の提示、学校と地域を繋ぐ業務などに事務職員や事務の共同実施組織を活用ー

学校評価をめぐるスケジュールの工夫

〇学年末の学校評価
　　⇒学校評価の改善の結果が生かされない

〇学期末、年度の中間での学校評価
　　⇒学校改善のための時間の確保

〇学校評価のスケジュール

保護者アンケートをめぐって

「本校生徒は、身の回りにある危険に注意を払って生活している」

「生徒は、授業に意欲的に取り組んでいる」

	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない
保護者	25．7	43．5	25．3	5．0
生徒	14．1	45．6	30．5	9．8
教職員	0	37．7	59．0	3．3

保護者や地域住民、学校関係者評価委員との連携、協力

○保護者や地域住民、学校・教職員をつなぐツールとしての学校評価

○学校評価への参加による関係づくり－学校の情報提供や学校関係者評価の実施を関係づくりの機会ととらえる－

学校評価をコミュニケーションツールに

〇評価項目の検討

〇保護者などが求めている情報の把握と提供
ー学校からの情報提供が不十分ー
・学力調査の結果、運動・体力調査の結果、
・卒業生の進路先、予算などの経理状況、
など

評価結果の扱いをめぐって

〇学校評価結果の公表：保護者や地域の人々にもわかりやすく伝える

〇学校評価をもとにした学校の説明

〇学校の発信力を高めるー広報戦略と学校評価ー体化ー

〇第三者評価における情報の共有ー講評を教職員にも聞かせる

学校関係者評価との連携・協働

〇学校評価実施状況調査
　学校関係者評価：
　　一般教職員との対話、
　　保護者からの意見聴取（約3割）
〇ポイントの明確化
〇学校からの積極的な情報提供ー学校の様子に触れる機会を積極的に設けるー
〇アンケートの工夫・改善
〇自己評価結果を理解しやすい内容に工夫する

学校評価における教育委員会の役割

1．各学校における学校評価の円滑な実施に向けての診断と評価

2．第三者評価についてのシステムの整備

3．学校評価に関する諸研修の実施

4．各学校からの学校評価結果の報告をふまえた学校支援

設置者による支援

〇市町村教育委員会の対応の差
　・学校評価の関する統一的な様式や共通項目
　・学校評価結果の報告フォーマット
〇学校への支援体制が十分でない
〇学校評価にかかわる人材育成が不十分
　・指導主事の育成
　・評価結果に基づいた指導助言
〇学校評価結果の報告と教育委員会評価との連動
〇第三者評価への体制が整っていない

Ⅲ．第三者評価の在り方

ガイドラインの考え方

〇自己評価ー学校関係者評価ー第三者評価

⇒学校関係者評価に第三者を加える

〇最近の事案
　・学校・教育委員会の当事者性に対する不信
　・第三者委員会の設置

〇試行事業における第三者評価

第三者評価システムの整備

１．第三者の目について
　・検証委員会
　・学校のマネジメントに生かす

２．教育委員会と学校に対する第三者の存在

３．教育委員会として
　・自ら組織し、実施する
　・連合して推進母体を組織する

Ⅳ．学校評価と人材育成

次の世代へのノウハウやマインドの継承

１．タテへの浸透
　・副校長、教頭、教務主任への継承をはかる

　・若い世代を対象にした研修

２．学校評価に人材育成の視点を

個々の教職員の自己診断能力を高める
－学校評価の校内研修－

１．学校全体をみる

－学校評価は学校全体を見つめる研修の機会・場である－

２．各分掌と学校全体の関係についての診断

３．項目のチェック－個人にとってか、学校にとってか－

４．教育の成果をとらえる－語る、記述する－

５．解釈する

６．改善につなげる

－“こうした方がよいのではないか”を生む－

学校評価に関わる人々の研修

＜すべての関係者に学校評価に関する知識・技法を＞

１．教職員に対して
－管理職中心主義からの転換－

２．学校関係者などに対して

３．教職員と学校関係者による研修会の開催

４．保護者に対して

学校評価を指導する人々の育成

1. 指導主事に対して

2. 教務主任に対して

3. 副校長、教頭に対して

4. 校長に対して

5. 学校事務職員に対して

参考文献

・天笠　茂『学校経営の戦略と手法』 ぎょうせい　2006年

・天笠　茂（編集代表）『学校管理職の経営課題』（全5巻） ぎょうせい　2011年

・天笠　茂『カリキュラムを基盤にした学校経営』 ぎょうせい　2013年